

# 平成23年度第3回青梅市協働事業市民推進委員会概要

平成23年8月24日

本庁舎5階 502会議室

10:00～12:05

配布資料：協働事業一覧、協働事業評価シート、NPOフェスタチラシ

出席者：委員9名、事務局3名

## 課長あいさつ

### 1 報告事項

#### (1) 視察場所について

##### 事務局報告

視察地は板橋区と入間市

- ・11月～12月を予定している
- ・庁内委員、職員を含め30名程度
- ・資料等を準備して、勉強してから視察に行きたい

#### (2) その他

##### 委員より報告

NPOフェスタについて

- ・NPOを周知するための企画。チャリティーTシャツを作成した。60団体が出る予定。
- ・企業はJA、TCN等約10社
- ・宣伝不足を感じる。口コミ等皆さんにも協力願いたい。

### 2 協議事項

#### (1) 市民等との協働事業とその評価について

##### 事務局説明

##### (質疑)

委員長：協働事業の一覧を一読してみて意見を伺いたい。

子育て関係の事業の報告が無い。

委員：協働の件数を増やしたいのか。市民が協力するだけでは協働ではないのでは。

事務局：評価については、全体的またはいくつかの事業だけで行っていた

だきたい。市民と手を組むだけで協働ではなく、マニュアルもできたので認識をさせていきたい。

委員：事業の予算はどうなっているのか。費用対効果は。また、事業の効果が具体的ではない。

事務局：予算は各事業について、市が負担した金額は分かる。

委員：マニュアルにある提案シートも活用した方がよい。

事務局：マニュアルは完成したばかりであるので、22年度については使用していない。今年度については2事業がマニュアルを使用して動いている。

委員：この一覧は昔からある既存事業である。評価シート等の調査で事業を見直している。

新しく協働事業を行う際の予算はどうなっているのか。

事務局：これからである。基金や予算をとることも考えている。とにかく提案制度は考えていきたい。

委員：役割分担としてノウハウを提供し、協働という認識で事業を行った。予算が足りない、職員が事業を本当に理解しているのか、と感じることもある。しかし、市民の提案を投げかけられる提案制度も大事である。

委員：予算を確保するときは前年度の課題をふまえて組むのか。

事務局：そうである。ただ、予算によっては何%かカットしなければならないこともある。また、事業については、職員と外部の評価で見直している。

委員：少子高齢化の時代であるが、それに関連した事業が少ない。

委員：事業の第三者評価を市民委員会で行うとき、この資料では事業の廃止等の判断は難しい。

事務局：この評価はあくまで協働の観点のものである。事業そのものの評価とは別である。

委員：事業について公開も必要ではないか。

事務局：昨年度から公表している。

委員：個別の事業について計画等を詳しく知りたい。

委員長：この委員会では協働をどのように進めていくか提言していくためのものである。

改めて評価についてどうするか。

事務局：昨年は市民側の評価がなかったので、今年は両者の評価を加えた。  
事業の評価をしていただきたいが、全部は難しい。ピックアップして評価をしていただきたい。

委員：ピックアップしてほしい事業は事務局側としてあるのか。

事務局：2，3あげることは可能である。

委員：庁内委員会と一緒に評価したい。

委員：評価の結果を予算のときに生かしてもらいたい。

委員：予算要求等、市の年間の予定が分からない。作成して欲しい。

事務局：作成する。

委員：事業の成果よりも、協働事業であると認識して事業を行う過程が大切である。

委員：様々な事業が予算の問題や10年を過ぎたということで終わっていく。継続すべきではないか。

委員：市に期待しすぎである。NPO等が主体となり、市が少し絡む程度が長続きするのでは。

## (2) 青梅市における協働の推進について

委員長：今回の意見やこれまでの意見をまとめ次回整理していく。事務局で整理してほしい。

事務局：次回に評価を行うと意見について協議する時間はない。次回に評価するとなると、意見をまとめるのはその次の会となる。

## (3) その他

### 3 その他

- ・11月7日午後に「行列ができる！チラシと講座の作り方」の研修を行う。
- ・次回日程については後日調整する。

副委員長あいさつ

— 閉会 —